

小さくとも豊かな村づくり

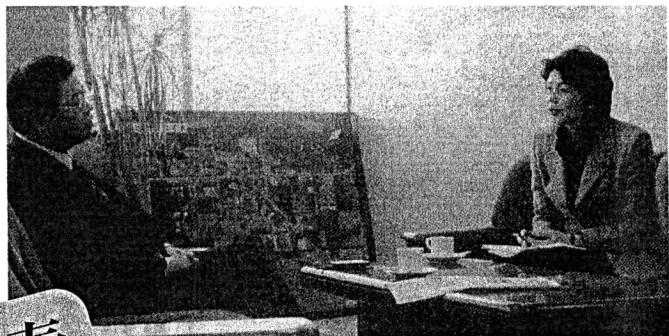
農地の大半が湿地帯で、それをなんとか使おうとした。それが自分たちの自信心が生きていって結ぶ。そして全体が活性化する。五千一百ヶタールの畠排水用渠と、土頭ぐらいしかいなかつた。たまたま、忠類村長は昭和二十四年に大樹町から分村して五十四年になる。この中で何をやつてきたのか、分村時は畑作中の心の村では数あるほじ七頭頃清一忠類村長——おめでとうございます。忠類村は昭和二十四年に大樹町から分村して五十四年になります。忠類村長——おめでとうございます。

紙智子参議院議員——あけましておめでとうございます。さうそくです、村の農業の特徴を話してください。

忠類村長 遠藤 清一氏

新春対談

参議院議員 紙智子氏



●遠藤村長のプロフィール
昭和20年3月18日生まれ
北海道立大樹高等学校卒業
家業從事(農業)
昭和38年4月 忠類村役場臨時雇用
忠類村役場奉職(正職員)
昭和40年6月 民生課長
議会事務局事務局長
昭和41年4月 総務課長
忠類村助役就任
昭和59年1月 忠類村村長
現在に至る

国を調べてみたら、自治体単独で何らかの努力をしているんです。本当に財政が大変な中で努力をしているので、それを支援する国の施策があるべきじゃないのかと思いま。 村長——本村は道の駅があつまて、いまいたい時間六十万くらいの人たちが利用している。その三分の一が利用している。その三分の一が高まってきたい寺から、そういう中で国内いろいろなことを提案していくチャンスです。

林を大事にしようという意識が高まってきたい寺から、そういう中で国内いろいろなことを提案していくチャンスです。 村長——ですからね、村は毎年三千万円を投資をして、村有林の管理をしていま。ただこれは村のためだけではなく、国土を守る事業の責任において行のが当然です。

紙——同感です。全国の町会から提言が出ていて、農山村、漁村の役場について、国土保全や環境保護委員会社会的な役割を評価することを主張しているが、そのためにも交付税が必要です。

村長——ですからね、交際費も交付税をめぐらしくて外から移住してきた人が、なんとかほっとするといいます。 村長——なんだか過疎にござりますね。

紙——新しくも来ていいよ。 市街地は農業集積排水事業、農村地区は区画整理事業、水芸花等は百戸にいたなを重視し、希望書には市街の人も農家の人が書いてあります。 村長——なんだか過疎にござりますね。

紙——新しくも来ていいよ。

紙——國の財政支援が少

いものにつきました。金額

が忠類村の足腰の強い農業

が忠類村の足腰の強い農業